



主任教授 檜澤伸之
 出身大学／北海道大学
 日本内科学会総合内科専門医、
 日本呼吸器学会指導医、
 日本アレルギー学会指導医

呼吸器内科は、感染症をはじめ、腫瘍性疾患、免疫アレルギー性疾患、肺循環系疾患、慢性炎症性疾患など、非常に幅広い領域の疾患を扱います。研修では稀少疾患からcommon diseaseにいたるまで包括的な診療技術をもつ呼吸器内科専門医の育成を目指しています。後期研修1年目では呼吸器疾患の基本的な診療技術を習得し、2年目以降でその技術や知識を補強していきます。最終年度では、自らの知識を整理し、他の研修医の指導を行うとともに、学会活動を通じて臨床研究や基礎研究への動機付けを行います。習得すべきことが多岐に及ぶため、常に高い向上心と継続的な努力とが求められます。しかし当科に所属している研修医たちはみな、探究心が旺盛で、やる気にあふれた若者ばかりです。筑波大学に限らず、他大学からの研修医も積極的に受け入れ、自由で開放された雰囲気の中で研修が行われています。社会の高齢化に伴い2020年における世界の死因の第3位が慢性閉塞性肺疾患、4位が肺炎、5位が肺癌、7位が結核と推測されています。一方で、呼吸器専門医の数は極めて少なく、多くの呼吸器疾患の患者さんが最新、最適な医療を受けることができません。呼吸器内科の社会的ニーズは益々高くなっています。一人でも多くの若い先生方と一緒に仕事をできることを楽しみにしています。

呼吸器内科では1人1人の独自性、専門性、価値観を最大限尊重し、個々の希望に柔軟に対応した後期専門研修が可能です。教授をはじめ多くのスタッフが個々の希望や考えをよく聞き、後期専門研修終了後までを見据えた生涯キャリアをサポートします。

研修目標

常に病に苦しむ患者さんの立場に立ち、幅広い知識と豊富な経験に裏打ちされた、包括的な視点に立った医療の提供ができること。

研修プログラム

筑波大学附属病院にて主に肺癌、間質性肺炎の診療や高度先進医療を経験し、各関連病院で結核、HIVなどの感染症、喘息、COPD、塵肺、高齢者特有の合併症を有する複合的疾患を主に経験。4年間の研修期間を通じて呼吸器疾患に対する診療技術を包括的に習得します。

日本内科学会、日本呼吸器学会、日本呼吸器内視鏡学会、日本アレルギー学会、日本臨床腫瘍学会、がん治療認定医機構などの認定施設で研修し、7～8年目には各学会の専門医を取得できます。

また、新・専門医制度開始後(2015年国家試験合格者から)は内科研修と呼吸器内科専門研修を並行して進めていくことが可能です。

3年目: 研修病院または大学病院で呼吸器内科の専門研修
または一般内科研修のどちらかを選択

4～6年目: 関連病院または大学病院で呼吸器内科の専門研修
7年目～: 個々の生涯キャリア志向を踏まえ、進路決定

後期研修修了後進路:
 大学院進学(臨床・基礎)、関連病院勤務
 大学病院クリニカルフェローなど

初期研修の経験内容をふまえて選択可能

後期研修中にも希望に応じて大学院への進学可能

新・専門医制度開始後も内科研修と呼吸器内科専門研修を両立させて研修可能

大学院進学(博士号取得)に関して

呼吸器内科では希望に応じて大学院進学が可能です。後期研修中または後に多くのものが大学院に進学します。分野は気管支喘息(アレルギー)、慢性炎症性肺疾患、癌、免疫学と幅広い分野で行っています。学位取得後希望に応じて留学(2～3年)することも可能です。

興味がある方はぜひご連絡ください↓(見学随時受け付けてます)

HP: <http://www.md.tsukuba.ac.jp/clinical-med/pulmonology/>

Tel&Fax: 029-853-3144, resp-med@md.tsukuba.ac.jp (呼吸器内科代表)

後期専門研修具体例

(1)幅広い内科研修から呼吸器内科専門研修へと繋がる研修

3年目：初期研修で不十分な内科研修分野、放射線科や病理などの呼吸器内科関連分野で1年間ローテーション(→内科認定医取得)

4～6年目：大学病院、呼吸器内科関連病院で研修(→呼吸器専門医等の取得)

3年目	4年目	5年目	6年目
一般内科研修(大学病院を2カ月×3科ローテ)/水戸協同病院総合診療科)	水戸医療センター(3次救急病院)	筑波学園病院(結核病棟有)	筑波大学附属病院

(2)大学院での研究と後期専門研修を並行して進めていく研修

3年目：初期研修で不十分な内科研修分野、総合診療科研修など内科専門研修(→内科認定医取得)

4年目～9年目：呼吸器専門研修と大学院での研究を並行して進めていく(→呼吸器専門医+学位の取得)

3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8～9年目
一般内科研修(ひたちなか総合病院総合内科研修/水戸医療センター呼吸器内科専門研修)	小張総合病院	茨城東病院	筑波メディカルセンター	筑波大学附属病院	リサーチ・イヤー(研究に専念)
大学院					

(3)呼吸器内科専門研修に続いて興味のある分野を重点的に研修(癌の場合)

3～6年目：呼吸器内科専門研修(4年目に内科認定医、7年目に呼吸器専門医取得)

7～8年目：国立がんセンター東病院等で2年間研修 → 病理研修・大学院へ

3年目	4年目	5年目	6年目	7～8年目	
茨城西南医療センター	県立中央病院(地域がんセンター)	筑波メディカルセンター(地域がんセンター・緩和ケア病棟有)	筑波大学附属病院(陽子線センター有)	茨城東病院(結核病棟有)	国立がんセンター東病院

(4)出産・育児をしながら専門医へのキャリアを形成

3年目：県立中央病院(内科認定医取得)

4～7年目：大学病院、呼吸器内科関連病院で研修(呼吸器内科専門医取得) → 関連病院で常勤勤務

3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
県立中央病院	日製日立総合病院(出産・産休+育休)	筑波メディカルセンター(病院付属の保育所を利用、育児支援を受けつつ常勤勤務)	筑波大学附属病院(病院付属の保育所を利用、女性医師支援システムを利用)(2人目の出産、産休+育休)	

研修病院

筑波メディカルセンター、茨城東病院、筑波学園病院、水戸医療センター、水戸協同病院(水戸地域医療教育センター)、日立製作所日立総合病院、ひたちなか総合病院(ひたちなか社会連携教育研究センター)、茨城西南医療センター、県立中央病院、霞ヶ浦医療センター、小張総合病院、帝京大学ちば医療センターなど

※上記以外病院での研修も個々の相談に応じております。

😊 後期研修医研修感想 😊

呼吸器内科ではCOPDや気管支喘息に始まり、市中肺炎、間質性肺炎等のびまん性肺疾患といったCommon diseaseを幅広く経験できます。大学病院という立場から特殊環境化での感染症や膠原病関連肺疾患など頻度の少ない症例も他科との連携により数多く経験しています。また、増加の一途をたどる肺癌症例に対しては新規抗癌剤のevidenceを積極的に導入し集学的治療に取り組んでいます。大学でも他の研修病院でのスタッフが熱心に臨床の現場に関わっており、指導も熱心です。雰囲気の良い環境での臨床研修が出来ると思います。

私が呼吸器内科を選んだ理由としては、内科ローテートで内科疾患の幅広さ、奥深さを痛感し、呼吸器疾患の感染症、アレルギー疾患から悪性腫瘍までという幅広さに魅力を感じたからです。3年目が終わる頃妊娠し、4年目の後半に産休・育休をいただきました。復職にあたっては女医の先輩方や教授に相談し女性医師支援制度を使い、1次～3次救急疾患から肺癌と多様な症例を経験できる病院で常勤として働きながら、専門外来や病棟でも主治医として患者の診療にあたり、専門医になるべく指導を受けることができました。7年目になった私にとって筑波大学呼吸器内科グループの魅力とは、奥深く幅広い疾患に対する魅力だけでなく、子育てしながら後期研修も不安なくしっかりできるように柔軟に対応してくれる心が広く、教育熱心な先生方が多いグループであるということです。